

長泉麗峰山の会・山行報告書	文・写真 後藤
山行番. NO. 2041	
日 時 2023 年 10 月 26 日(木) 晴れ・寒い～涼しい	
山 域 南会津・三岩岳（みついわだけ・2065m）～窓明山（まどあけやま・1843m） 周回	
コース 桧枝岐「見通りキャンプ場」起床 4:00-小豆温泉（あずき）三岩岳登山口 5:35-標高点 1308m-黒檜沢旧道分岐 7:20-避難小屋 9:05-三岩岳山頂 10:01～26（食事）-避難小屋 11:02-最低コル「めまうだ湿原」三岩大池 11:33-窓明山 12:12-巽沢山（たつみさわやま）-窓明山登山口 14:54-南会津「うさぎの森オートキャンプ場」（泊）	
標高差 上り 小豆登山口約 770m～三岩岳 2065m～窓明山＝約 1513m（累計）	
データ 長泉～桧枝岐（西那須塩原 IC 経由）＝約 392km、有料（平日・御殿場経由）＝8980-	
難易度 非常に困難 困難 レやや困難 普通 やや易しい 易しい	
「なんじゃ、こりゃ～」の上りが延々続く山	
参加者 後藤、加藤、合谷＝3名	

今年 10 月の週末は悪天候が続き、恒例の南東北ツアーがなかなか実現出来なかった。下手をしたら、「激紅葉鑑賞」はダメかと諦めた矢先、ようやく好天が訪れた。会の山行スケジュールもいろいろあったが、無理いって、何とか実現に漕ぎつけた。

東北道・西那須塩原 IC から桧枝岐に向かう。酷い山道予想だったが、産直・観光・古民家に寄り楽しい「逍遙ドライブ」だった。

桧枝岐は久しぶりだった。今日の宿は、見通りキャンプ場バンガローだが、「安価・新しい・静か・清潔」だった。何より嬉しかったのが、トイレが温水ウオシュレット。若い管理人は気持ち良い対応。隣の「道の駅」に温泉があり割引で入れた。



会津・曲家



桧枝岐・屏風岩

翌朝、4:00 起床。登山開始は丁度夜明けだった。天気は良く、昨夜は満月が見られたという。登山口に「第 50 回・国民体育大会」の看板があった。

最初から「激上り」が始まった。ネットは、「凄い上りが続く」とあった。理由は、すぐ

分かった、登山道がジグザグでなく、山頂まで6ステージの急坂が全て「直登」だからだ。効率は確かにイイ。しかし、足腰の負担はハンパない。



美しいブナ林が続く

標高点 1308mを過ぎ少し下ると、黒檜沢分岐だった。ここから更に「厳し〜い上り」で標高点 1699m。残雪がチラホラあった。バンガロー管理人の話では、2〜3 日前に降ったという。

次第にシラビソの森になった。少し傾斜は緩くなった。標高約 1850mに避難小屋があった。積雪期の記録は、殆ど小屋は埋まっているので、冬は5〜6mは積もるのだろうか。山岳スキーの記録は多いが、あの「激上り」を考えると躊躇する。

もともと、2000年に隣の会津駒ヶ岳に山岳スキーで上ったが、やはり「激上り」で、標高約 2020mまでしか上れなかった。この辺りの山は、なかなか厳しい。

小屋上は、なだらかな上りが続く。湿地帯が続き、足元は「田んぼ」状態だった。視界が広がり、背後に鳥が翼を広げたような窓明山があった。

何かロマンチックな名称だった。翌日、北那須・甲子山（かしやま）で会ったオバサンは、「そうめいさん、そうめいさん」といったが、正しくは、「まどあけやま」という。

「激上り」で尾根の右手に窓明山がズッと見えていたが、疲れ癒しの遊びで、「窓は開いていますか〜??!!」と山にお声がけをした。(笑い)



避難小屋



新雪があった



後ろが窓明山

小屋から小一時間で山頂着。「誰も居ない。誰も来ない。誰も会わない」静かな山頂。お隣の会津駒は、ごった返しているのに・・・。

同行のGYには、いつも我々の「渋山」に付き合わせて申し訳ない。今春は、計画外で「百名山・荒島岳」に上れて良かったが・・・。

山頂から展望は素晴らしかった。ただ、例によって「見聞が少ない」この山域は、山岳同定は、思うに任せられなかった。そもそも山が多過ぎる。

山頂から中門岳～会津駒は、素晴らしい尾根が続いていた。ネットでは、縦走するパーティーもある。2泊で周回出来るようだ。

時間は早かったが、小腹が減ったので食事を摂った。暖かい日差しが届き、風もなく寒くなかった。



山頂



会津駒方面



山名起源の三ッ岩



下る



ダケカンバ



窓明山に向かう

避難小屋に下る。雪解けで登山道は、「田んぼ」だった。小屋前で左折し窓明山に向かう。

先もグジュグジュの道。下り切れば、最低コルで「めまうだ湿原（三岩大池）」が待っていた。「めまうだ」の意味は、調べたが分からなかった。



めまうだ湿原（雲がイイね～！！）

湿原でしばし休憩。草紅葉（もみじ）と雲がイイ感じだった。池から窓明山に約 118m の厳しい上り返し。

振り返れば、三岩岳が大きかった。逆光に葉を落したダケカンバが美しかった。喘ぎつ



窓明山



三岩岳

つ山頂着。新しい大きく立派な山名板があった。さぞかし、持ち上げるのは、大変だっただろう。再び休憩。小食する。天気は依然、安定していた。結局、ここでも誰も会わなかった。

さあ、後は下山するだけと思いきや、実は途中にまた、約100mの上り返しがある。覚悟で行くしかない。大きな切り開きを下って行く。右手に三岩岳が大きかった。



下部の激紅葉

100mの上り返しは厳しかった。しかし、これを越えなければ帰れない。しかも、依然として一直線の激下り。膝に違和感があった。巽沢山（たつみさわやま）を越えて、ようやく下山の目途が付いた。長い一日が終わった。

<メモ>

1. 桜枝岐「見通りキャンプ場」バンガローは、1名=2333-+燵の湯=400-。トイレは、温水ウオシュレットで快適。シュラフ持参。
2. 食材は、R121の山王峠下の「道の駅」で揃う。
3. 下山後、会津田島手前の「うさぎの森キャンプ場」コテージ利用。1名=3900-、内風呂あり。安価・超キレイ・清潔・静かでお勧め。清潔な布団あり。
4. 2峰とも、百名山以外の山。
5. 会津は、毎年訪れたい山域。

